

1. 序論

筆者は、幼少期から紫色が好きでよく身につけていた。洋服に限らず、アクセサリなどの小物、更には文房具までも紫で揃えるほどであった。好きになったきっかけは、友達から紫色が似合うと言われたことがあったからだ。世界には様々な紫色が存在する。青みがかったものから、赤みの強いものまで、また、明度や彩度が異なるなど、紫と言っても多様である。そうした中で、私は自分の肌に最も合う紫色を知りたいと思った。なぜなら、それを知ることで今後、自分のファッションの幅が広がり、自分のコーディネートに自信が持てるのではないかと考えたからだ。そこで本研究では自分の肌に合う紫色を探すことを目的として研究を行うことにした。

2. 実験方法

色相、彩度、明度の異なる9種類の布を使用し、1種類ごとに10秒間肌に合わせる時間を設け、評価者に順次見てもらい、全種類を比較した。それを1セットとし、合計3セット行った。布はデコルテ部分が見えるように、下着と肌の境界に当て、腕は横に広げた状態とした。

評価者には、3セットの中で、最も合うと思った色を1位から3位まで記入してもらった。



写真1 実験時の下着



写真2 布の当て方

1位3ポイント、2位2ポイント、3位1ポイントとし、各色相の得た票数をポイント化し、合計ポイントの最も高い布を筆者の最も似合う紫とした。

3. 結果

種々の紫色の中で、最も標準的な紫色に近い色相が1位(2.5P4/10)となった。また、2位(7.5P5/10)も色相はそのまま明度が少し低く

なった色相となった。最下位は1番青みの強い色相(10Pb4/10)となった。表1には各布のマンセル値、ポイント得点をまとめた、また図1は、各布の得点を棒グラフ化したものである。

順位	布番号	マンセル値	得点	割合
1位	5	2.5P 4/10	108	14.93%
1位	6	7.5P 5/10	108	14.93%
3位	2	2.5RP 3/8	94	13.00%
4位	7	5P 8/4	79	10.90%
5位	1	2.5RP 4/10	74	10.20%
5位	8	10Pb 2/8	74	10.20%
7位	3	10P 4/12	70	9.68%
8位	4	10PP 3/4	69	9.50%
9位	9	10Pb 4/10	47	6.50%

表1 順位・合計点・合計のからの割合

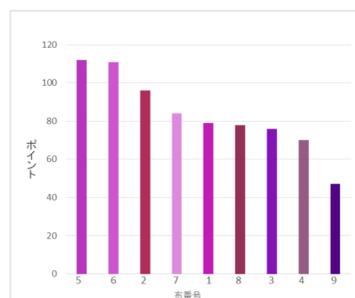


図1 各色のポイント

4. 総括

日本人の肌の色の分類から、より似合う色には定義がある¹⁾。その中で今回の実験で選ばれた紫色はイエローベースのスプリングタイプの色に属しており、筆者の肌タイプがイエローベースのスプリングタイプの特徴にあてはまったため、今回の結果になったのではないかと考えられる。

反対に最も票の少なかった色相はブルーベースのウィンタータイプの色味に近い色であった。深みのある低明度な色が多く、最下位の布の色相に近かったため、この結果になったと考えられる。

また、夏から秋にかけて実験を行ったため、日焼けをしてしまったことが結果にも影響しているのではと考えられる。肌の管理のほかにも、実験を行う部屋の照明の違い、髪色などが実験結果に影響する可能性が示唆された。

謝辞

作品制作を行うにあたり終始熱心にご指導を頂いた榎本春榮先生に心よりお礼申し上げます。

出典 1. “カラリウム：あなたも自分に似合う色を見つけませんか”, <http://colorium.jp/>, (2020年1月アクセス)

